

農村集落部門：荃永地区自治公民館（南種子町）

1 地区の概要

荃永地区は、南種子町の南東部に位置し、水田を主とした農村地域であり、世界で最も美しいロケット発射場と言われる「種子島宇宙センター」や全国で三箇所のみで伝承する古代米「赤米」の伝承地などの観光の地域でもある。

日本一の超早場米コシヒカリやWCS用稲の生産、抑制かぼちゃ、そらまめ、ラッキョウなどの園芸作物の生産も盛んである。

地域の伝統行事として、福祭文（くさいもん）や蚕舞（カーゴマー）、願成就祭（九月踊り）、御田植祭など脈々と受け継がれてきた伝統文化の継承に地区全体として取り組んでいる。

2 むらづくりの主な内容

女性参画を地域活性化の重要な柱の一つに位置付け、女性を中心とする「むらづくり委員会」を設立し、多様な主体と連携しながら、地域資源を活用した特産品開発、伝統文化の継承、高齢者も安心して暮らせる地域づくりなど、地域みんなが安心して暮らせる共生・協働のむらづくりに取り組んでいる。

農村集落の再生

荃永地区は、水田を主とする農村地域であるが、地域住民の生活スタイルの多様化や混住化が進み、むらづくりの方向性を検討する必要が生じていた。

こうした中、当地区を含む国内の赤米伝承3団体による「赤米サミット2014inくきなが」の開催を契機に、地域活性化に向けた住民の機運が高まり、「むらづくり委員会」の結成につながった。むらづくり委員会を地域活性化の柱と位置づけて、地区をとりまく多様な主体と連携し、地域みんなが10年先を見据えた体制を整えながら共生・協働のむらづくりに取り組んでいる。

多様な主体との連携

- ・ 地域起こし団体「NPO 法人食育研究会らく楽料理教室」と連携し、赤米や地元産の魚を使った特産品開発に取り組んでいる。
- ・ 地区内の豊満神社においては、若い世代による願成就祭奉納踊りや赤米保存会と連携した国指定の重要無形民俗文化財「種子島赤米御田植祭」などの伝統文化の継承に取り組んでいる。
- ・ 地域の子ども達を対象に、伝統行事を体験する「地域探訪」と名付けた活動を通して、子ども達の郷土愛を育てている。

新たなむらづくりの形成、むらづくりの維持・発展

<特産品の開発と女性参画・担い手育成>

- ・ 古くから郷土に伝わる赤米を活用した「つのまき」や地元産の魚を使った「押し寿司」などの特産品開発に取り組んでいる。
- ・ 「むらづくり委員会」の結成は、特産品開発を通じた女性の活躍の場の創出はもとより、新たなリーダー育成や若い世代への伝統文化、伝統料理の継承にもつながっている。

<水稲栽培に係る年中行事の伝承>

- ・ 地域伝統行事の御田植祭（国の重要無形民俗文化財指定）など、脈々と受け継がれてきた伝統文化の継承に、青年団や子供達も含めた地域全体で取り組んでいる。

<10年後を想定した体制づくり>

- ・ 「茎永で子どもを育てたい・暮らしたい」という I・Uターン者の集落への定住を促進するため、空き家の情報収集・提供を行うなど、将来を見据えた地域の活性化（児童数減の歯止め）に取り組んでいる。
- ・ 高齢者が生まれた集落で安心して暮らせる地域づくりに向け、「地域支え合い協議会」を設立し、高齢者への「今日も元気です」旗の配布や、食事会の開催による外出機会を創出し、相互扶助・自助努力の体制づくりに取り組んでいる。

3 今後のむらづくりの方向性

今後は、10年先の人口形態を想定したむらの在り方や、伝統文化の保存・継承方法を検証し、恵まれた立地条件を最大限に生かしながら、地域みんなで共生・協働のむらづくりを継続していきたい。

過去を受け継ぎ、現在を容認し、未来へ託す備えを果たし、希望の光のあるむらづくりのため、学習の場を増やし、伝え合う場を設け、得意不得意による淘汰に左右されない茎永のむらづくりを進めていきたい。

<活動状況写真>



国指定の「宝満神社御田植祭」



全国地域伝統芸能奨励賞の受賞



若手ボランティアグループによる高齢者向け食事会



特産品「つのまき」の製造